

●ベトナム日本語・日本語教育学会設立発表会（報告）

（2017年9月30日，ベトナム：ハノイ）

報告者：石井 恵理子（東京女子大学：日本語教育学会会長、参加者）

去る9月30日に、ベトナムのハノイで日本語・日本語教育学会の設立発表会が開催されました。北部、中部、南部それぞれの地域で日本語研究や日本語教育を行っている主要大学の教員をはじめ、多くの関係者が一つにまとまった、初の全国組織の誕生です。

設立発表会には、在ベトナム日本国特命全権大使、ベトナム言語学会理事長、2020年国家外国語プロジェクト管理委員会副委員長、国際交流基金ベトナム日本文化交流センター所長が来賓として出席され、全国から多数の日本語教育関係者が参加されました。日本の日本語教育学会も招待を受け、会長の石井が出席いたしました。また、日本の日本語教育学会の賛助会員である株式会社アスク、カシオ計算機株式会社をはじめ、ベトナムで事業を展開している日本企業からも参加がありました。地域間の連携がなかなか困難なベトナムにおいて、全国的な組織が作られることはたいへん画期的なことで、発足に尽力されたダオ・ティ・ガア・ミー会長はじめ諸先生方、関係者のみなさまのご努力はさぞかしたいへんなものであったと思われ、喜びにあふれた会となりました。

式典の後には、パネルセッションが開かれました。ベトナム各地の日本語教育事情について、北部、中部、南部の5大学の教員による発表があり、教員不足（学位取得のために日本の文科省等の奨学金で大学院等に行く教員が多く、その欠員分の補充がなされない、また大学等から給料の高い企業に教師が移動してしまうといった事情による）、教師の過重な負担、中等教育で日本語を学んだ学生の受け皿となるレベルのクラスが大学にないこと等、全国的に共通する問題について、フロアも交えて活発な意見交換がなされました。

会の後に懇親会、そして学会の委員の先生方を中心に相談会が持たれました。初等・中等教育、大学、民間など多様なレベルの日本語教育が拡大しているベトナムの状況において、アーティキュレーションの問題にどう取り組んだら良いか、各国の取り組みなどを参考にしたいがどんな事例があるか、といった質問が次々と出されました。全国的組織の立ち上げは国際連携の輪に参加する第一歩であり、日本語教育の課題をベトナム国内の日本語教育界全体の取り組みとして考えていこうという強い意欲が感じられました。

日本から協力できることは何か、また日本国内で学ぶベトナム人学習者が増加している近年の状況で、ベトナムからの協力が得られることは何か、双方向での協力の可能性を考えて行かねばならないと思います。